

# 福島第一3号機 震災10日後 炉心再溶融に関する見解について

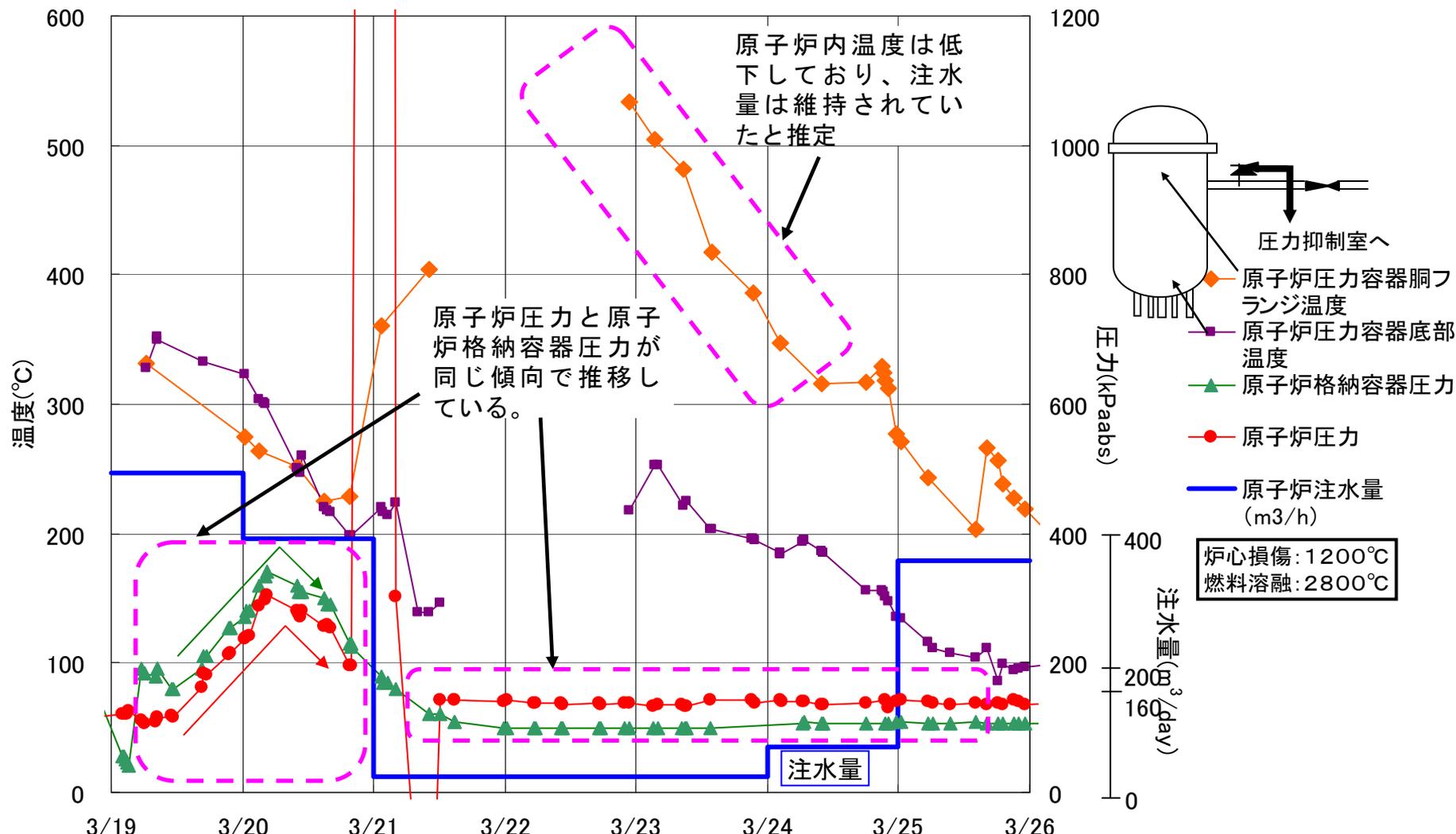


図1. 福島第一3号機 压力容器温度及び圧力等の挙動

- 原子炉への注水量については、3月21日から3月25日にかけて、一時的に異なる計器（消防ポンプ→中央制御室の制御盤）に変更していた。  
この期間、原子炉への注水量を減らすような操作は行っておらず、ポンプ2台化により増加させていた。原子炉への実際の注水量は、原子炉圧力や原子炉格納容器圧力の変動が小さいことから、大きく減少したとは考えにくい。

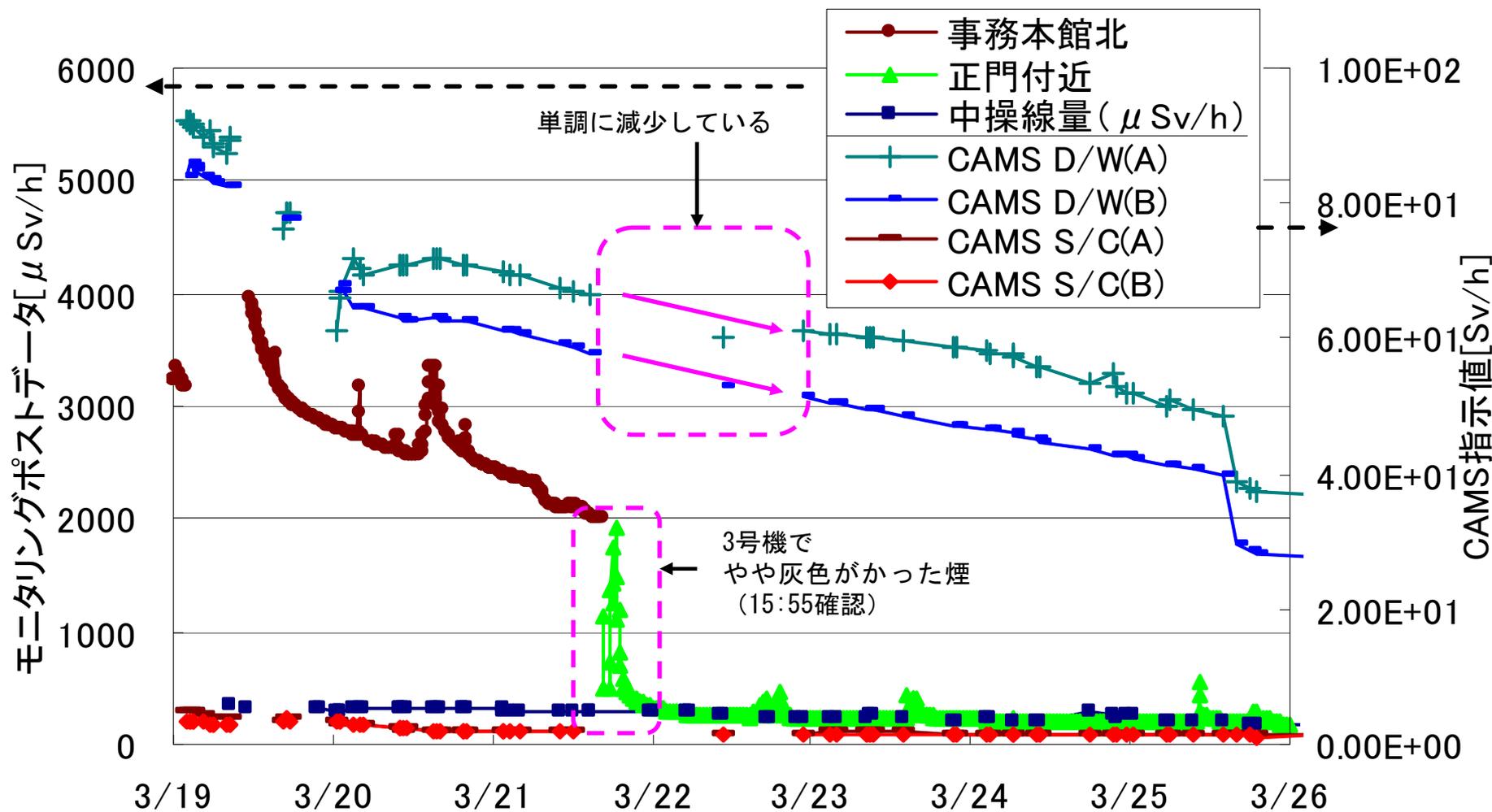


図2. 発電所内の線量率と福島第一3号機CAMS（格納容器放射線モニタ）の挙動

- 格納容器放射線モニタの指示値は3月21日から3月25日にかけて単調に減少しているものと推定出来る。

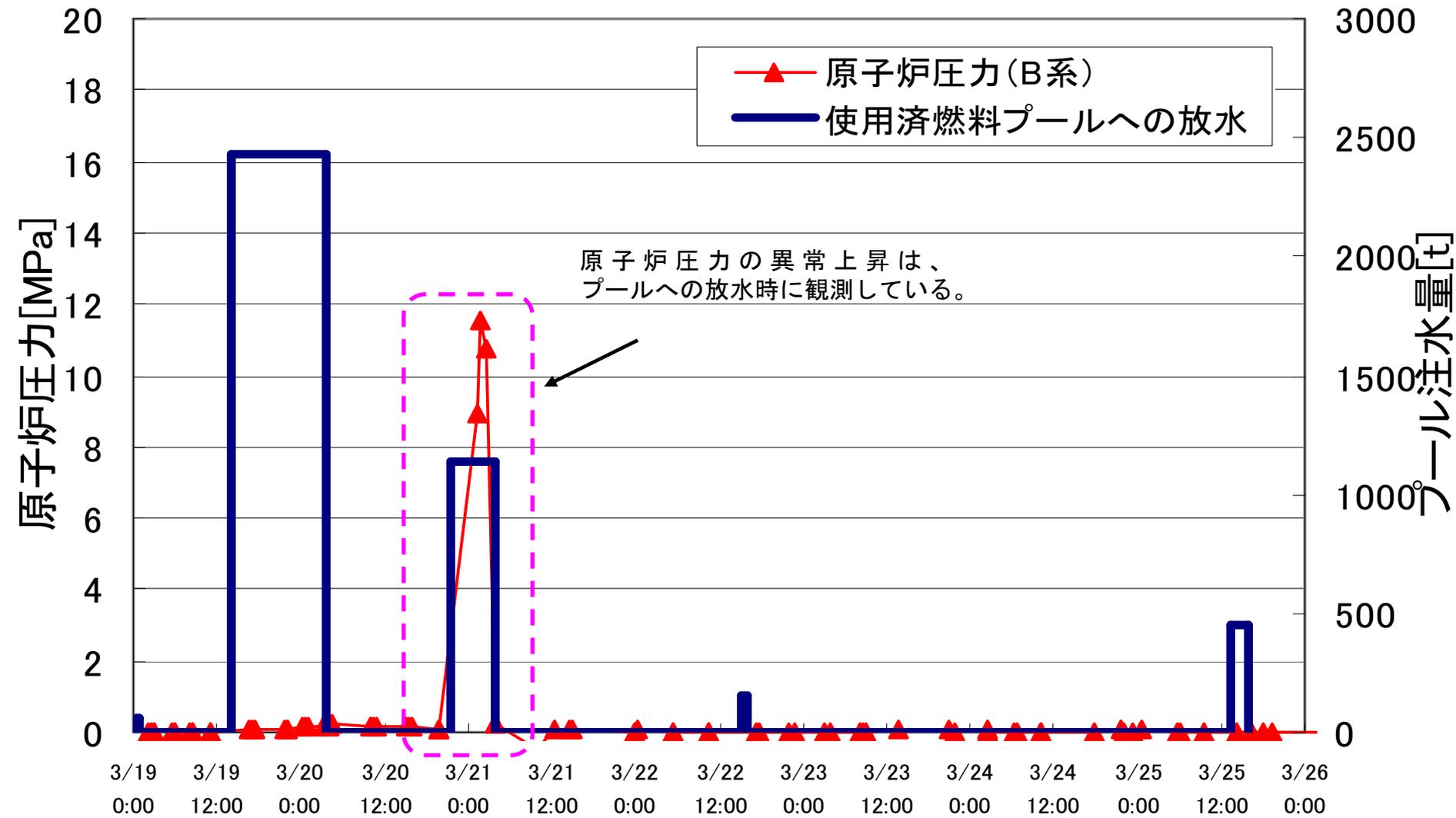


図3. 福島第一3号機 原子炉圧力（B系）と使用済燃料プールへの放水実績の関係

- 原子炉圧力の異常な上昇は、プールへの放水時に観測している。放水との因果関係は不明であるが、8MPaを超える圧力測定値は指示不良と判断している。  
（3月21日5時の「プラント関連パラメータ」にも記載有り。）

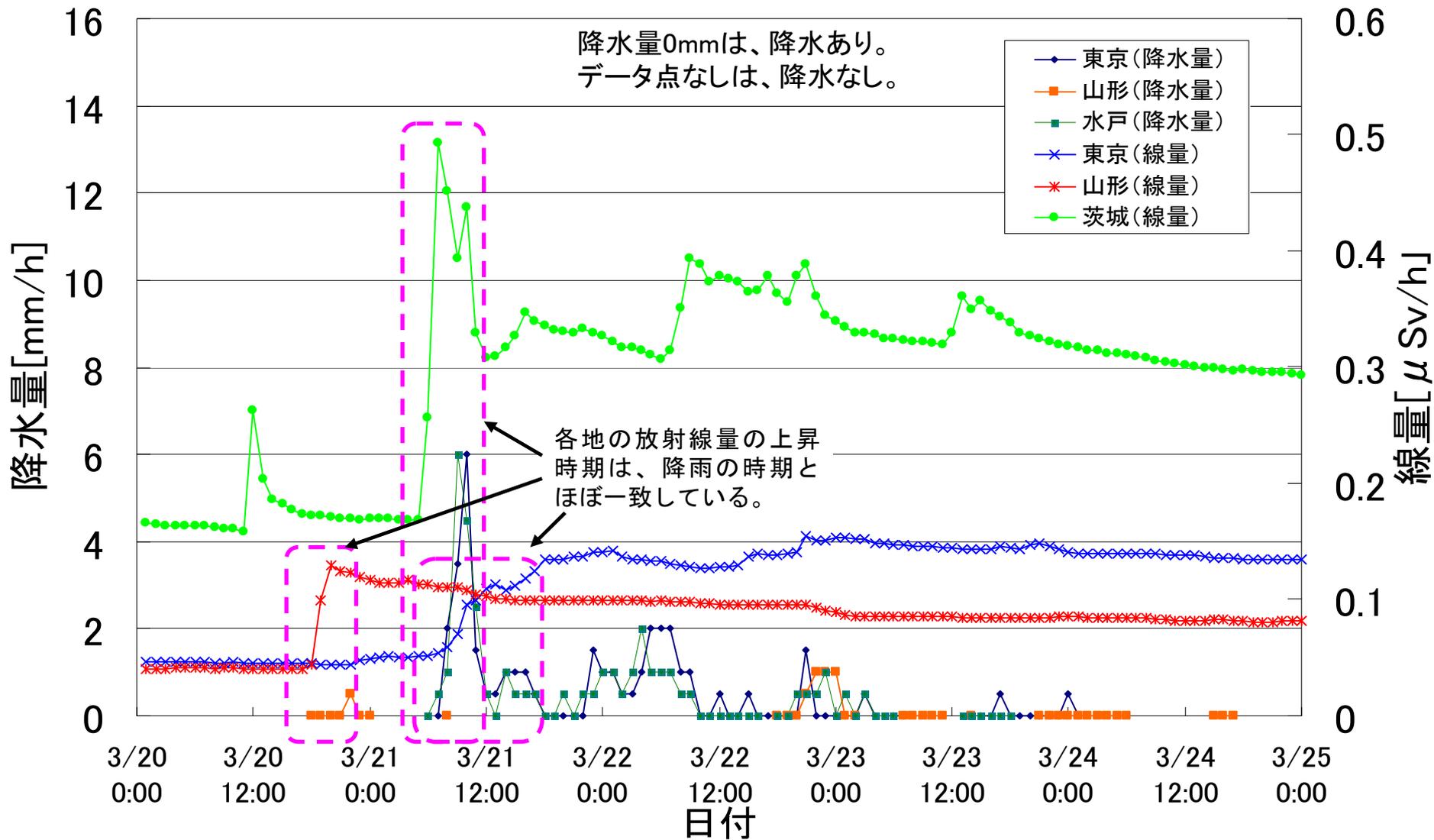


図4. 降水量と各地の放射線量の関係

- 茨城、東京、山形の21日前後の放射線量の上昇は降雨時間と符合している。